

平成23年度愛媛・高知交流会議 議事録

日 時 平成23年5月13日(金) 12:55~14:00

場 所 愛媛県林業研究センター 展示研修館1F 研修室

出席者(敬称略)

愛媛県知事 中 村 時 広

高知県知事 尾 崎 正 直

1 開会

(愛媛県企画振興部 横田部長)

それでは、ただ今から平成23年度愛媛・高知交流会議を開催いたします。

本日の会議の進行役を務めさせていただきます、愛媛県企画振興部長の横田でございます。よろしくお願ひ致します。

開会に当たりまして、今年度の開催県である愛媛県知事がごあいさつを申し上げます。

2 開会あいさつ

(中村愛媛県知事)

第11回目となる愛媛・高知両県の交流会議ですが、本日は、遠路はるばる久万高原町まで足を運んでいただきましてありがとうございます。

また、私も就任して間もないことありまして、今回の機会に視察ができましたことを本当に嬉しく思います。本日の会場である愛媛県の林業研究センターには、今年から、先ほどご覧いただいた愛媛大学の久万高原キャンパスが開校しました。これは高知大学との協力の下に開校された施設であり、その開校初年度に尾崎知事をお招き出来たのは、大変メモリアルなことだと思います。

世の中は、今年3月11日に発生した東日本大震災の対応で収まりがつかない中、多くの日本人がその行方を心配しているところです。高知県におかれましても、様々な被災地支援に取り組まれていることと思います。被害に遭われた皆様には、本当にお悔やみとお見舞いを申し上げさせていただきます。と思います。

また、高知では昨年「龍馬伝」のブームで、その取組みが功を奏して大変多くの観光客で賑わいを見せたと聞いております。更に、間髪入れず次なる手立ても矢継ぎ早に打たれているということもお聞きしております。

地の利から言っても、高知と愛媛の連携によってお互いが更に活性化していく芽は沢山あると思いますので、本日は、忌憚のない意見交換の中から新たなヒントが見つければと期待させてい

ただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

(尾崎高知県知事)

よろしくお願いいたします。

3 意見交換

(愛媛県企画振興部 横田部長)

それでは、愛媛・高知両県の共通課題や連携、交流などにつきまして、意見交換項目の順番に沿ってフリートーキングで意見交換を行っていただきます。

なお、これよりの進行は、開催県といたしまして中村知事をお願い致します。

よろしくお願いいたします。

(中村知事)

それでは、どうぞよろしくお願いいたします。

1時間という限られた時間ですから、項目を絞って忌憚のない意見交換をした方がいいと思いますので、4つくらいのテーマで進めさせていただきます。

【東日本大震災に係る支援等の取組み】

(中村知事)

東日本大震災が発生し、この1～2ヶ月、各県とも支援に奔走している日々を送っています。これは、支援もさることながら我々自身の災害対策へとつながって参りますので、まずは東日本大震災への支援、あるいは災害対策をテーマにさせていただきたいと思います。

どうでしょうか、被災地の支援状況は。

(尾崎知事)

そうですね。いろいろな形で支援申し上げているわけですが、まずは物的な支援、資金的な支援、いわゆる義援金という形でスキームを整えて来たところですが、できればしっかり手を挙げておきたいのが、被災地からの人の受け入れということでございます。

各県で、だんだんとそのスキームを整えて来られておるかと思いますが、うちの県でも公営住宅を活用したり、更に場合によっては民間の空き住宅もご紹介するスキームを設けて、全体で、最大5,000人くらい受け入れられる準備を整えているところでございます。そういう中で、例えばお子さんが来られたら学校をご紹介するとか、更に加えまして一時的な生活資金をバックアップさせていただくとか、併せて心のケアなど、総合的に窓口を一本化して支援できる体制を整えております。

非常にいいなと思っていますのは、民間の皆さんの中から、高知に来られた方々と一緒に支援

しようという気運が出来てきました。「東日本大震災支援プロジェクトこうち」という民間のNPOの皆さんが、高知に来られた方々にお米を送ったりすることから始まって、「こういう家電が欲しい」などのご要望に応じていこうと。そういう体制が出来てきていることは非常にいいことだと思います。今回の地震によって、沢山の方が「明日は我が身」という思いを持たれていて、そういうことから高知県でも、被災地の支援に全力を挙げていこうという思いが非常に強くなっていると思います。

ただ、今後に備えてやっていけないといけないと思った点は、やや細かい反省点かと思うんですが、色々な支援について政府の方から要請が来たり、知事会の方から要請が来たり、それからいろんな団体からも来たり。それが高知県庁に来たり各市役所に来たり。支援の要請系統が錯綜している。やむを得ないことかと思うんですが、今回の教訓を踏まえて、支援要請ルートの一歩化を、是非連携して国等に働きかけができればいいなと。支援の関係ではそういうことを思っております。

(中村知事)

今おっしゃった支援要請のルートについては、今回は、全国知事会が比較的いい役割を果たしたと思います。うちでしたら、(高知県も)多分同じだと思いますが宮城県へという割振りでした。ああいう形をやっていただくと非常に動きやすいなと感じました。知事会としてルールを確立したらいいなと思いましたね。

(尾崎知事)

ええ。国のいろんな支援も、各省庁から知事会に話を通して貰って、知事会から指示を貰うというような。

今回は、市町村がだいぶ苦労されたようでしてね。市町村に対して直接(支援要請を)言って来られて、果たしてどこまで対応するものか、周りはどうしているのかがわからなくて大変苦労したというお話をいただいたんです。その辺りのことも、支援要請が県へ来て、県から各市町村へお伝えしていく、そういうルートができればなと思います。

(中村知事)

愛媛県は、たまたま(私が)市長出身で、市長や町長が今までずっと一緒にやっていた方々ばかりだったものですから、今回も割と早い段階で「愛媛県チーム」でやろうと呼びかけました。例えば物的支援については、県が情報収集して各市町に品目をお伝えする。各市町では庁舎等を収集場所にしていて、それを県がトラックで全部まとめて被災地へ持って行く、そういう体制をとりました。あと人的な支援も全て「愛媛チーム」で。

(尾崎知事)

なるほど。

(中村知事)

そうすると、小さな町からも派遣ができるんです。これは非常にいい取組みだと思います。

(尾崎知事)

物資も取りまとめて現地に運んで行ったんですが、時々、何々省、何々庁から市役所とかにダイレクトに連絡が行くんだそうです。例えば、給水車が要るから送ってくれとか。そういう辺りのことを、支援を要請する側が初めから知事会に通していただければ一番いいかと。

(中村知事)

組織が動きやすい。

(尾崎知事)

そうです。

(中村知事)

愛媛では、もう一つ変わった取組みとして、条例で基金を創りました。「えひめ愛顔の助け合い基金」。被災地支援が長期にわたりそうなので、義援金がだいたいまとまってきて配分委員会を作ったタイミングを受けてこの条例を制定しました。

この基金は、運営委員会を設けて、いわば何にでも使えるようにしているんです。例えば、福島の会津若松で観光客が激減しているというのであれば、旅行業界が会津若松への旅行商品を作ったら助成金を出すとか、あるいは修学旅行でこちらへ来てくれたら基金でこちらでの面倒を見ましようとか。いろんな使い方を想定しているんです。愛媛県の特殊な試みですのでちょっとご紹介させていただきました。

【東南海・南海地震対策の取組み】

(・伊方原子力発電所周辺の安全確保等について)

(中村知事)

関連することとして、愛媛県は原子力発電所立地県でございますので、隣県に現状をお伝えしておく必要があるんじゃないかと思っておりますので、私の方からかいつまんでお話をさせていただきます。

福島の事故を受けまして、原子力発電所に対する不安は、立地県に留まることなく全国に広がっていると思います。私も震災の2日後に伊方原子力発電所に行きました。今一番大切なのは、冷静に見つめることだと思うんですが、一つには、同じことが起こる確率はどうなんだろうという視点があります。

揺れと津波という二つの要素について分析する必要があると思いますが、ご案内の通り、東日本大震災はプレート型地震で、太平洋の海溝の深いところで起こった縦ずれが原因とされています。また、福島原子力発電所の位置がその真正面にあるという特殊な条件がありました。

こちらで同じものが起こるとすれば、南海地震の震源地は徳島南方ということになるかと思っておりますので、この場合の津波に関しては、もちろん検証し直しますが、今の段階では、伊方までの距離が非常に遠いこと、それから佐田岬半島の内海側に位置していることから、マグニチュー

ド8.6の南海地震が起きた場合、伊方原発へ到達する津波は1.9メートルという試算が出ています。

もう1点、前面海域、つまり伊方の真正面で地震が起こった場合の津波はどうか。水深は80メートルですから海水の量はそんなにないですね。また、断層ですから基本的には横ずれで、横ずれの場合は津波は起こらないのですが、それでも縦ずれだった場合はどうかという想定数値が出ていて、これが4.25メートルになっています。これが正しいかどうかは今後検証が必要だと思えます。

伊方の場合は、地理的な条件からいうと、津波よりもむしろ揺れに着目する必要があるのではないかと考えています。電源装置については既に四国電力に申し入れをしまして、一つ目の手立てとしては、新たな大型の移動式の電源車を配備するという。それから二つ目は、伊方原発の上に変電所があるんですけども、この変電所から新たに電線を引っ張りまして、新しい電源ルートを確立するという。これはちょっと他とは違う点だと思えますけれども、この作業にもあたることが決まっています。それからディーゼル発電機は、福島の場合は地下にあって、地下に設置されたがゆえに津波でひとたまりもなかったということなんです。伊方の場合は地上10メートルのところに設置されていますので、この点も大きな違いだと思えます。今後、福島のいろんな話がわかってきた段階で、揺れへの強化というのは大きなテーマになって来るのではないかと考えています。

また、こうしたやりとりを強化するために、6月から、四国電力の原子力本部を高松市から松山市に移転していただくことになりましたので、あわせてご報告させていただきたいと思えます。

最後にもう一点、情報の問題があります。ニュースを見ていると福島県知事も情報が入って来ないと非常にご立腹されていましたが、伊方原子力発電所の場合、他の原子力発電所と違っていて、事の大小を問わず、何らかの変化が発電所内にあったら全て愛媛県に報告が来ることになっています。その公表もすべて愛媛県が行うことになっています。四国電力が行うという形になっていません。速やかに愛媛県に報告がなされ、愛媛県が基準に基づいてプレス発表する。業界では「愛媛方式」と言われていますが、これを絶対に死守して、詳らかな情報を常にキャッチするようにしていきたいと思えます。是非、高知県の立場からも、四国電力に対し、情報についてはそういった体制を取り続けて欲しいということを、何らかの機会に言っていただけたらと思えます。よろしくお願ひします。

(尾崎知事)

はい、わかりました。本県でも、伊方原子力発電所の関係については、今回の件を受けて不安に思われる方が増えていると思えます。そういう中で、中村知事はじめ皆様のご尽力によって、矢継ぎ早にいろんな対応が行われていることについて感謝を申し上げたいと思えます。

今回の福島原子力発電所の大いなる教訓は何かというと、あれくらい重大な施設というものは、想定外のことが起こるということであらかじめ想定しておいて貰わないといかんと。それを、強く強く教えてくれたと思えます。例えば、「国の想定であれば津波が5.7メートル来るということだった。だから5.7メートルに備えていたけどそれを超えちゃいました。」それは言い訳にならないと思うんですよ。どれだけ重大な施設かということ考えた時に、今の国の想定は5.7メートルかもしれないけれど、人の知見を超えたことが起こるかもしれない。じゃあど

ここまで備えればいいのか、それはわからないかもしれませんが、例えば5.7メートルと言うんだったら、その2倍にも耐えられるようにしておくとか。是非そういう対応をとっておいて貰いたいと思うんです。

これからいろんな形で想定の精度を上げていくことも非常に重要だと思うんですが、どんなに上げていったとしても、おそらく人間の知識は自然の変動を完全には捉えきれないんだということを前提として、対応を講じていくことが必要だと思います。四国電力にも、現在の津波の想定もわかりですが、特に揺れの想定、その想定外のことが起こり得るんだという覚悟の基に、色々な安全対策を抜本的に強化していただきたいと強く思っています。

(中村知事)

それは本当にありがたいです。

(尾崎知事)

我々も、是非、愛媛県と歩調を合わせて四国電力に申し入れをさせていただきたいと思います。四国電力も安全対策を強化しなければならないというスタンスでおられることを伺っておりますので、是非、共同歩調で強く訴えていくということをさせていただければと思います。

それと「愛媛方式」の情報公開。その方式は本当に素晴らしいと思いますので、是非堅持していただいて。逆に申しますと、その中で我々も大いに安心感が高まっております。

よろしくをお願いします。

(中村知事)

ありがとうございます。

この業界はこれまで、国の指針を待ってとか、国の指針に基づいて安全対策をするということが常態化していたと思うんですが、今回最初に四国電力に申し上げたのは、尾崎知事の言われるように、国の指針に縛られないアディショナルなことをやって欲しいと。これを最初に申し上げたんですよ。この視点が今回は大事だと思います。特に、揺れ対策については何らかの機会に伝えていきたいと思いますので、是非よろしくをお願いします。

(尾崎知事)

よろしくをお願いします。「国が言った通りにやっていたんだからいいじゃないか。」そんなことが通用するような世界じゃありませんのでね。

(中村知事)

逆に言えば、国はこう言っているけれど、私どもはもっとやりますと言って率先してやることによって、絶対に信頼感が生まれてくると思います。

(尾崎知事)

そうだと思います。

(・津波被害への対策について)

(中村知事)

もう一つ、愛媛県でも南の地域が非常に懸念をしているのですが、高知県の場合、もっと懸念の度合いが強いのは津波の問題だと思うんですね。

(尾崎知事)

そうですね。今回、私も被災地へお伺いして来ましたし、職員も盛んに行って、ある意味、応援とともに学ばせていただいています。今回の東日本大震災を踏まえて、南海地震対策については、減災、復旧、復興、全てのステージにおいて抜本的に強化していかなければならないと考えているところです。我々は南海地震対策として、東海・東南海・南海で連動型の大地震が起こるんじゃないかということを想定して対応を練ってきたところですが、やはりもう一段、施設によってはさっき申し上げたように想定外を想定した対応が必要になって来るでしょう。

それから、今回はおそらく現地でもこれが想定外だったと思いますが、行政機能が広域にわたって失われてしまうという状況。これが、復旧においても復興に当たっても全てにおいて非常に大きなネックになっているようですね。例えばある自治体が被災して、そこで失われた機能を周辺がバックアップしようとしても、バックアップすべき周辺が全部被災してしまっているというような事態ですから。これは従前の対策の中では・・・

(中村知事)

なかったですね。

(尾崎知事)

甘かった。我々としてもそういうところを反省しているところです。そういうこともありますから、南海地震対策については、今、我々もプロジェクトチームを作って抜本強化をしていこうとしています。併せて、今すぐできる対策というものも、優先順位の高いものは、とりあえずの対策ではあるんですが組み合わせやっいて、代用していきたいと考えているところです。

ただ、やはり南海地震対策を進めていくに当たっては、国全体としての対応が非常に重要になって来ると思っています。東北でも今回一番言われたのが地盤沈下して浸水するということが、お手元にお配りしている資料をご覧くださいますと、下が現在の高知市、上が昭和南海地震の時で、こういう形で浸水したんです。

(中村知事)

写真が残っていたんですか。

(尾崎知事)

そうです。高知市では非常に大きい被災が想定されています。下は高知市の浦戸湾ですが、ここをしっかりと堤防で固めていくことが非常に重要になって来ます。これは二級河川が殆どですけども、ものすごいスピードで液状化対策をしていこうとしておりまして、これには資金も含め、

巨大なパワーが必要な仕事だと思っています。そういう意味においては、我々としても、国全体での取組みというのを強く働きかけていけないと思っています。併せてこの黄色い部分は県管理の堤防ですが、これだけ整備をしていかなければいけないんですよ。

(中村知事)

広いですね。

(尾崎知事)

国の力が必要だということと併せて、国の方でも省庁の枠を超えた柔軟な対応をとって貰わないといけないことが沢山あります。例えば、今回、宮城県の村井知事も提案されていましたが、高速道路を避難場所としても使えるようにしていきたいという発想があるわけです。これは道路行政と国土防災行政との境をとばらなくてやっていく必要がある。まさにこういう形の整備をしていくことが、実はいざというときに人の命を守ることに繋がるだろう。これも何々省と何々省の枠、何々局の縦割りをどう打破できるかに、非常に大きなポイントがあると思っています。高知県として徹底した対策をとっていくとともに、併せて、国に対してこういうことを強く訴えていくことが必要だと思っています。

それともう一つは、なんと言っても県を超えたお互いの支援体制も必要だと思うんです。そういうことから、是非ご提案させていただきたいことがあるんです。東海・東南海・南海地震に対応していくために、関係県の知事でネットワークを作らせていただくことです。高速道路のミッシングリンクに対応していくための9県知事のネットワークがありますけれども、東海・東南海・南海地震対策の関連県のネットワークを作らせていただければと思います。それでもってお互いの支援体制を常に確認させていただくとともに、国に対してもしっかりと訴えていく。そういう体制を作られればと思うんです。まずここで合意をさせていただいて、それを一つのスタートとしてネットワーク作りを進めさせていただければと思うんですけれども。

(中村知事)

大賛成でございます。是非参加させていただいて、一緒になってネットワーク作りに協力させていただきたいと思います。

(尾崎知事)

よろしくをお願いします。

(中村知事)

何県くらいになりそうですか。

(尾崎知事)

9県くらいになるんでしょうか。静岡、愛知、三重、和歌山、徳島、愛媛、大分、宮崎、高知。そのくらいになるんじゃないでしょうか。

(中村知事)

はい、わかりました。

(・緊急輸送路の整備について)

(中村知事)

今お話を聞いていますと、災害対策になると国の役割が大変大きい訳で、「二級河川だからうちは知らないよ」という話ではありません。今回の震災で、我々は津波被害の現実を知らしめられたと思うんです。今の知見から言えば、例えば高速道路にしても災害対策のためにも必要なんだという視点をもっと強調すべきだと。特に高知と愛媛のミッシングリンク、あそこが完成しなければ移動手段はもう国道しかないわけですよ。孤立するのは目に見えています。また、今ご指摘のあったように、今回の震災でも高速道路が避難場所として活用されたという例が多々出てきていますから、そういった意味でも高速道路は単なる移動手段ではない、災害のことを考えた時に必要欠くべからざる路線なんだという観点で、8の字の問題にもつなげていく必要があるのではないかと思います。

もう一つは、この被害の甚大さを見て、あらゆる公共事業について安全・災害対策に関しては徹底的に優先度を高くする、そういうメリハリの効いた国策が必要だと感じています。高速道路もそうですし、また、原子力発電所立地県には共通の課題なんです。例えば半径20キロ30キロになりますと八幡浜市が入ってくるんですね。ところがこの八幡浜市から外に出る道が整備されていないんです。だから、今この状況で八幡浜市全体が避難できるかと言ったら、交通大渋滞を起こしてスムーズな移転もできません。こうした原子力発電所立地地域についての避難道の整備についても、国策として優先度を高めるべきだと思うんです。海岸の問題、それから原発の問題、こういったことに関しては、国に対して、知事会等々を通して強力に発言していく必要があるんじゃないかなと思います。

(尾崎知事)

はい、是非そのようにさせていただきたいと思います。

【四国西南地域の活性化に向けた取組み】

(・観光振興での連携について)

(中村知事)

次は、お互いの活性化に結びつくような議題を取り上げさせていただきたいと思います。産業振興、特に観光面での問題について意見交換をさせていただきたいと思います。

高知県は、先ほどもお話ししました通り、昨年は「龍馬伝」で非常に活況を呈しました。愛媛県でも、「坂の上の雲」がちょうど同じ時期のドラマ化ということで、ある意味では両県が賑わった年であったと思います。また、これからの連携のきっかけとしては、地芳道路(トンネル)の開通、それから宇和島への高速道路の延伸によって、宿毛や四万十川などへの距離感が非常に

短くなって来ますから、まさに連携の機運が醸成されて来たと思います。いかがでしょう。

(尾崎知事)

そうですね。是非連携をさせていただきたいと思います。まず、今年の「土佐・龍馬であい博」では、愛媛の皆さんにも大変ご協力をいただきまして本当にどうもありがとうございました。

特に、脱藩の道があります橋原町には、地芳トンネルが開通して以来、本当に多くの愛媛の皆様方がおいで下さったそうでして、皆さんの温かいお気持ちに感謝申し上げたいと思います。ポイントとなる地点で重要インフラができることの効果の大きさを、非常に感じさせてくれたなと思っています。是非、四国4県で、例えば高知イン愛媛アウトでもいいでしょうし、愛媛イン高知アウトでもいいでしょうし。今もいろんな商品があるかと思いますが、松山から愛媛西南部、それから幡多、高幡、中央部にかけてのルートで観光商品を造成させていただいて、訴えさせていただきたいと思いますね。

併せて、「四国ツーリズム創造機構」を通じて外国に対して訴えていくことも非常に重要じゃないかと思っています。チャーター便にしても、我々も取組みを進めようとしていたところで、震災の関係でいったん中断になっていますが、愛媛に入られて最終的に高知でアウトしていただく、ああいう道ができればいいかなと思っています。国際観光ということになりますと1県だけではなかなか大変ですからね。是非連携をさせて貰いたいと思います。

(中村知事)

今、アジアでは空前の自転車ブームになっています。愛媛だったら例えば「しまなみ海道」等々が想定されるんですけども、高知でのサイクリングのおすすめポイントというと、どこになるんでしょうか。

(尾崎知事)

やっぱり四万十川流域ではないでしょうか。

(中村知事)

ああ、そうか。四万十川。そこらと結びつける手はあるんですね。

(尾崎知事)

ええ、それはもう最高の景色でありますので。これが(資料)、ちょうど愛媛と一緒にやらせていただく「四国サイクリングプロジェクト」です。「コグウェイ四国」の委員長、山崎美緒さんが企画をしてくださって。

(中村知事)

ああ、お会いしたことがあります。

(尾崎知事)

四万十川流域の、高知から愛媛に抜けていくこの道が最高なんだっておっしゃっていただきま

してね。ぜひ自転車旅行のメッカにしたいって言っていただいたんですよ。

(中村知事)

そうですね。

(尾崎知事)

観光庁の溝畑長官も大変応援してございましてね。「是非、どんどん進めていきましょう」って言ってございまして。プロのサイクリストの皆さんに何うと、四国はなかなかいいらしいですね。サイクリングの場所として。

(中村知事)

絶対にいいと思います。佐田岬なんかものすごくいい。メロディーラインは両側が海ですから。四国は、本当に山あり海あり島ありで自然を満喫できる要素が揃っていますから、個人的にもサイクリングっていうのは一つの切り口じゃないかと考えていたので、これは波長がドンぴしゃと合っている。是非連携をさせていただきたいと思います。

(尾崎知事)

ええ。この「四国サイクリングプロジェクト」は愛媛スタート・愛媛フィニッシュですから、是非一緒にさせていただきたいと思います。途中、途中で私も参加させていただくことになると思うんですけど、是非ご一緒に。

(中村知事)

はい、わかりました。外国からも結構来るんですね。

(尾崎知事)

はい、そうです。山崎さんは世界中でサイクリングをやっていらっしゃる方で。ありがたいことに四万十川流域に目をつけて目を付けてくださいました。

(中村知事)

四国4県が連携して、各県がこのサイクリングコースはすごくいいですよ、というのを宣伝し合えるようになればいいですね。

(尾崎知事)

そうですね。

(・JR予土線利用促進対策について)

(尾崎知事)

また、高知と愛媛の関係では、予土線。四国西南地域の重要路線ですから。予土線は沿線人口は少ない路線かとは思いますが、逆に言いますと観光路線としての振興をというお話を。

(中村知事)

予土線に関しては愛媛県でも動きがありました。去年の11月、私が就任する前ですけれども、地元の自治体、宇和島市、松野町、鬼北町が「予土線利用促進対策協議会」を立ち上げていますので、よく連携をしながら考えていきたいと思えます。

私は南予の風景に非常に惹かれています。その先には高知が入ってくる訳ですけど。松山の風景とは全く異質な、ありのままの自然が残されていますし、そこで育まれる地産品、山の中へ行くと突如現れる秘湯、温かいもてなしを売りにする民宿。時間があつたらゆっくり行きたいと思う魅力がてんこ盛りなんです。けれど、意外と知られていないんですよね。例えば、県境を越えて高知県の檮原のことが、松山市、人口が多い消費都市の松山市にどれだけ伝わっているかという、意外と伝わっていないということがあります。お互い、例えば南予の情報を高知市民の皆さんへ、宿毛から四万十、檮原にかけての情報を松山市へ紹介するとか、そんなことも考えたらいいんじゃないでしょうか。

(尾崎知事)

はい。是非進めさせていただきたいですね。

予土線の関係ですと、いわゆる通勤・通学用の路線としては沿線人口も少なくてなかなか大変な側面がありますが、他方、観光路線としては最高だと思っているんです。嵐山のトロッコ列車みたいなもので。嵐山のトロッコ列車は、もともと普通の線路でJRが廃止しようとしていたものを、ある役員の方が「あれは観光列車にするべきだ」と強く主張されて観光路線に変換されて、それで大成功したそうです。

私は、予土線というのも、あれだけ長期間にわたって大量の方々に一挙に四万十川を見ていただくことができる最高の交通手段じゃないかと思っています。更に今度、海洋堂の「ホビー館 四万十」がオープンするんですよ。それにあわせてJR四国も「ホビー館」仕様の全面ラッピング列車、(資料) こういうのを走らせてくださるんです。

(中村知事)

(列車の中に) ショーケースまであるんですね。

(尾崎知事)

そうです。海洋堂のホビー館は旅行エージェントも注目しているみたいです。これが予土線の沿線にできたりもするんです。四万十川の自然を楽しむ、海洋堂のホビー館等も楽しんでいただく、またラッピング列車で列車そのものも楽しんでいただくという形で、予土線を観光路線として活性化させる、その方向でも進めていきたいと思っています。

(中村知事)

ホビー館は(廃校になった)小学校の体育館を使っているんですね。

(尾崎知事)

そうなんです。海洋堂の創設者の宮脇館長さんはもともと高知にご縁のある方で、今回こうい

ったものを作ってくださいました。海洋堂は、フィギュア、ホビーの関係では全国的に有名なところでした。海洋堂の主催するイベントでは、幕張メッセの1号から6号を全部使って、2日間で5～6万人の人を集めました。そのくらいの集客力のあるところです。

(中村知事)

これはおもしろいですね。

(尾崎知事)

さっきおっしゃっていた高知と愛媛共同の旅行商品の途中に、こういうのを組み込んでいただくやり方もあるかもしれません。

(中村知事)

「海洋堂コレクションが日本のへんぴなところに一挙に集結」って。このコピーはいいですね。オープンはいつなんですか。

(尾崎知事)

今年の7月9日です。

予土線は地域の脚として本当に大事な線路ですからね。ただ、乗っている乗客の密度が低い。そういう中でも、なんとしても残していかなければならない。残すためには、観光路線として残していくことが必要になってくるだろうと思います。

四国知事会と合わせて、JR四国と一緒に鉄道の勉強会をやっていましたよね。あの中でも、経営安定基金の積み増しをということを訴えてきました。今、法案が国会に提出されているんですけど、残念ながらまだ成立していないんですよ。

(中村知事)

方向は決まったんですよ。

(尾崎知事)

はい。あの法案を成立させて貰って、経営安定基金の積み増しをする。ゆえにJR四国の経営がより改善していく。ゆえに予土線が残せるという構図もあるかと思っています。法案の早期成立に向けては、四国4県で働きかけていく必要があるかと思っていますので、是非一緒に共同歩調をとらせていただきたいと思います。

【四国へのプロ野球球団の誘致】

(中村知事)

観光とはちょっと角度が違うかと思いますが、個人的な夢でもあるのですが、賛同いただけるのであればお力を貸していただきたいんですけども。

私は、かつて松山市長時代、松山市では坊っちゃんスタジアムを所有していましたので、これをどう有効活用しようかということを中心に考えていたんですが、その中でヤクルトスワローズのキャンプの誘致であるとか、オールスターゲームの誘致であるとか、いろんなことに取り組んできました。その時に持った夢が、四国にプロ野球球団ができないかということだったんです。

かなり詳細な調査も実施しているいろいろ考えてみたんです。ちょうどその時、東北に楽天イーグルスが誕生して。その時も一応打診はあったんです。ただ、東北が仙台を中心として100万人、松山市は周辺人口を合わせても70万人。フランチャイズの試合が年間70試合くらいあるんですが、それを採算ラインまでカバーするにはやはり周辺人口で100万人は必要だということで、その時点ではあきらめたという経緯があるんです。

松山市だけでは無理だということであるならば、規模から言って集客キャパ3万人の坊っちゃんスタジアムが核になる必要はあるけれども、四国4県の共通球団として、フランチャイズ70試合を振り分けていくことで対応できないかなど。勝手に個人で考えていただけですよ、全くの夢物語。その時にいろんな分析をした中で、例えば採算ラインに乗せるためには1試合当たりどれくらいのお客さんが必要か、そのためには球場の観客席がいくら必要か、あるいはナイター設備の状況、それから交通アクセスの問題も含めていろんなハードルがあると思うんです。もちろん来る球団があるかどうかは全くわからないのですが、少なくとも夢を追いかけるといって、今どんな条件やハードルがあるのかということ进行分析してみてもいいのかなど。

(尾崎知事)

いいですね。

(中村知事)

是非ご賛同していただきたい。

(尾崎知事)

是非、是非。

(中村知事)

他県の知事にも呼びかけて、みんなで四国初のプロ野球球団への夢を追いかけてみませんか。

(尾崎知事)

おもしろいです。おもしろいですね。是非、是非。

(中村知事)

是非ご協力を。今回、東日本大震災の時に楽天球団の果たした役割ってやっぱり大きいなと思ったんです。みんながあの試合を待っていたかのようなようでした。地元での勝利によって、みんながものすごく笑顔になっていく。被災地における楽天イーグルスの存在を見ていて、四国にもそういう球団があったらなと思いました。また、日本ハムや楽天の定着を見てみると、やがてプロ野球界にも、おそらく今まで以上に地域戦略が入ってくる時期が来るんじゃないかなど。そんなこ

とを考えて、ささやかな可能性ですけれども頑張ってみたいと思います。

(尾崎知事)

ええ、頑張ってみましょう。

【鳥獣害防止対策への取組み】

(・シカ被害防止のための県境域における連携捕獲等について)

(中村知事)

次に、お互い非常に苦しんでいる鳥獣害についてですが、高知における現況と愛媛側における現況とに違いはあるかもしれないけれども、苦しんでいるのは間違いなく、場合によっては連携も必要なほど事態が悪化していることを受けて、テーマに挙げさせていただきます。

(尾崎知事)

鳥獣害対策としては、19年から、捕獲1頭につき今なら8,000円をお支払いする等の対策を進めて来たんです。ところが昨年調査をしてみますと、非常にショッキングだったんですが、19年から22年にかけて盛んにやってきたんですけれども、シカの生息数は増えているんです。本当にものすごい勢いでシカが増えてきている。そこで平成23年度からは、シカを捕ることを専門にするチームを設けることから始まって、更には、予察(捕獲)と言うんだそうですけれども、狩猟期でない時でも被害が出る前にあらかじめ駆除することができるような取組みをすとか、いろんな対策をとって全力で進めています。

一つ、非常に大きなネックとなりますのが、追いかけていったシカが県境を越えて行ってしまった場合に手が出せなくなることです。シカに県境は関係ない訳ですから。それが非常に大きなネックとなって来たところなんです。是非、連携捕獲についての取組みを進めさせていただきたいと思っています。先日、私どもの担当が(愛媛県庁に)お伺いさせていただいて、同一の日に同一の地域で同時に捕獲をする一斉捕獲の取組みを進めようというお話をさせていただき、ご賛同をいただいたと伺っています。今後も、こういう形で県境を越えた捕獲に向けた協力体制をますます強化させていただきたいと思っております。

今はまず、一斉捕獲に取り組むことを第一としていながら、更に加えて、最も効果的なこととしては、県境を越えた捕獲、お互いに相互乗り入れできるようにするということが非常に大きいと思います。ただ、これについてはいろいろと課題があります。登録の問題、そもそも地元の猟友会の皆様のご理解が賜れるかどうか。後者についてはこれからお互いに協力して検討を始めさせていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

(中村知事)

愛媛県でも、特に南予地域、宇和島市、鬼北町辺りでこのところシカ被害が急速に増えて来てまして、高知ほどではないんですけれども、かなりの被害届が出されている状況で、悲鳴が上がりはじめています。

愛媛の場合は、その他にも島にイノシシが上陸しまして。他県の島でイノブタを飼っていたんですよ。嵐でそのイノブタの厩舎が壊れて一斉に海を渡って泳いで来た。松山市の中島町では、6～7年前まで0頭だったイノシシが、今は1,000頭を超えています。

(尾崎知事)

それは大変ですね。

(中村知事)

イノブタは年2回お産して、1回当たり5～6匹産むそうです。あっという間に広がるんです。

愛媛県ではシカとイノシシを両方追いかけているような状況なんですけど、一番困っているのは、猟友会、担い手がいなくなっていることです。高齢化が進む、それから新たな免許の取得者が増えて来ない、更新するにもお金がかかる。そんな問題があるんですね。撃つ人がいないということが非常に悩みの種になっている。

実は、一度自衛隊にも頼んだことがあるんですが、これは無理だということがわかりました。今、もう一つ頼んでいるのが自衛隊のOB会です。警察のOBはどうかかなと思ったら、警察は短銃の方なんでこっちはなかなか技術がないということで、ちょっと今見合わせているんですけど。そういうところにみんなで呼びかけて、担い手を増やしていかないと。

(尾崎知事)

そうですね。

(中村知事)

これも共通課題かなと思っているんですけども。

(尾崎知事)

とにかく、シカによって人の住める領域がだんだん狭められていく。更には、苦勞して作った作物を最後に全部シカが食べていく。人の心にも影響してしまうんじゃないかと思います。多くの方々が脱力感、虚無感に襲われる、そういう側面になりつつあるなど。これはかなり非常事態だという認識の下、徹底した対策に取り組みなきゃならないと思っています。県境を越えた協力が非常にポイントかと思っていますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思っています。

(中村知事)

データを見て驚いたんですが、高知県はシカの生息の推定密度が10万頭らしいですね。愛媛県は1万頭ですけど、どうしてこんな差があるんでしょうか。

(尾崎知事)

まだ県境を越えていないということでしょう。県境の山が険しいということがあるんでしょうか。移動していきますのでね、シカは。もっと言うと繁殖力もものすごく強いんです。雄を捕るより雌を捕らなければならないんですよ。いろいろ条件があるんです。

イノシシもそうだったんですけれど、ただ、イノシシの場合は猟で捕ると商品になる。ですがシカの場合は、ならない訳ではないのですが、なりにくいところがあって、捕るインセンティブがあまり湧かなかったということが、かつてはあったようです。そういったことで、捕る度にお金をお支払いすることでインセンティブを持って貰うということをやっているんです。

また、シカは作物を食べるだけではなく木の皮を剥ぐんです。角で。そうすると木が枯れて、それで山腹崩壊を起こしたところまであります。シカの話は笑ってられないんですね、本当に。

(中村知事)

人里にも出てくるんですか。

(尾崎知事)

出てきます。出てきておじいちゃんおばあちゃんが一生懸命つくった作物を全部食べていきます。シカにはシカの都合があるんでしょうけれども、我々も人間の暮らしを守らなければなりません。ちょっと異常に増え過ぎています。やはり冬が暖かくて、越冬するようになったのが大きな要因ではないかと言われているらしいです。鳥獣害対策に真剣に取り組んでいきたいと思っています。

(中村知事)

県境における連携プレーには、猟友会、あるいは市町村の合意も必要ですが、ぜひ担当者同士で話を詰めていくことができたらと思っています。よろしくお願いします。

(尾崎知事)

よろしくお願いします。

【PR】

(中村知事)

最後に、今年も両県でいろんなイベントが進んでいくと思います。高知からのPRをお聞かせいただければと思います。

(尾崎知事)

はい。去年は「土佐・龍馬であい博」でしたが、今年は「志国高知 龍馬ふるさと博」という通年のイベントを実施しているところです。

「土佐・龍馬であい博」から大河ドラマ「龍馬伝」が終わった後の反動減を防ぎたいということ、また、1年で終わらず複数年やることによって観光地の底上げを図っていききたい、実力を付けていききたいという動機でもって、今年の3月5日から来年の3月31日まで実施しているのが「志国高知 龍馬ふるさと博」でございます。

テーマが大きく4つに分かれていまして、「志の偉人伝」「花絵巻」「まるごと体験」「食まつり」。

まず歴史関係の色々なパビリオンとして、博物館や資料館でいろんな企画展を実施しています。メインのパビリオンとしては、「土佐・龍馬であい博」の時もそうだったんですけど、JR高知駅前にもう1台新しいパビリオンを建設しまして。

(中村知事)

以前の建物はそのまま使われているんですか。

(尾崎知事)

そうです。二つあるうちの1棟をそのまま「観光情報発信館」として使いながら、もう一つ新しいパビリオンとして、今度は常設で置いておけるものを建てて、その中にドラマの時の龍馬の生家セットを置いて、多くの方に来ていただこうと考えているところです。併せて、安芸からずっと西に至るまでいろんな形で歴史関係の資料館がございますので、そちらでそれぞれいろんなイベントを実施しておるところです。

それから「花絵巻」、例えば五台山とかモネの庭とか四万十川周辺で非常に美しい花が咲くものですから、その花を用いたいろんな企画展を実施しているということです。

「食まつり」では、いろんなホテルさんにご協力いただいて、黄色いのぼり旗が立っているところでは季節限定の高知県の特別メニューを提供させていただいたりしています。

また、ラフティングを始めいろんな自然体験とか、そういうのをやらせていただいています。

(中村知事)

年間イベントですから去年と同じですね。これでドラマがまだ続いているような感じに。

(尾崎知事)

できればいいなと。

(中村知事)

雰囲気は保てるんじゃないかなと思います。

(尾崎知事)

お陰様で。目標はとにかく一昨年を上回るということです。実は、前の「功名が辻」の時は、その翌年においてブームの前の年を大幅に下回ってしまったんですね。瞬間にブームが起こっただけで終わってしまったんです。それを踏まえて、底上げという形で繋げていきたいなと思ってしまして。ですから前々年がライバルということになるんですが、1月から3月でも対前々年比で8%くらい、ゴールデンウィークは17%くらいのプラスでしたから、そういう意味においては、こういうイベントを含めて底上げ出来ているかなと思っています。ただ、これからいろいろ客観条件も厳しくなってくるので、もっとしっかりしたいと思っています。

(中村知事)

最後に私の方から。愛媛県もいろんなイベントがあるんですが、まず松山市では「坂の上の雲」

第3部の放映が今年の11月から12月に控えています。観光へのインパクトは、「龍馬伝」のように急激にという訳ではないですけど、予想通り、3年間右肩上がりにじわじわと拡大していくという様相を呈しています。これについては10年間まちづくりに取り組んで来ましたので、もうある程度、物語を味わうコースが出来上がってきています。そういったこととドラマとを上手くミックスさせながら誘客に繋げていく。(高知県と)同じようにこの期間だけのドラマ館がありますのでこれも有効活用しながら、「坂の上の雲のまちづくり」と道後温泉とを噛み合わせて誘客に繋げていきたいと思っています。

それから、先ほど申し上げましたように、いよいよ宇和島まで高速道路が延伸されることになります。これは来年、平成24年になりますけど、1年がかりでイベントを実施する予定になっています。歴史をめぐるまち歩き(「伊達なまち歩き」)、四万十川の源流の地域にスポットライトを当てた川、森の巡り(「森の四万十自然学校」)、それから宇和海、愛媛県らしい海の魅力をこのイベントの中に大いに盛り込んでいきたいと思っています(「まるごと海のミュージアム」)。

今、こういったいろんなアイデアを出して貰って、イベントの構組みの仕上げに入っています。当然、高知にも繋げられるということになりますから、連携も出てくるのかなと思っていますので、よろしくをお願いします。

(尾崎知事)

是非。

(中村知事)

もう一つ、かつて「龍馬!」をテーマにやらせていただいたことのある「坊っちゃん劇場」で、今年は「誓いのコイン」というミュージカルを上演しています。これは、実は私がきっかけを作ってしまったこともあって、非常に責任を感じている作品なんです。

日露戦争の時ですから、今から100年以上前、愛媛県にはロシア人捕虜収容所があったんです。今のお城のある所の下にバラックが建設されて、そこが病院と収容所を兼ねていたんです。当時、松山市の人口は3万2千人くらいだったんですが、延べ人数で6千人のロシア人がいたんです。病院もありましたので、そういったところでは当然、看護婦さんと将兵との出会いも数多くあった訳ですね。

やがて戦争が終わって、それが取り壊されて100年の月日が流れるんですが、昨年、堀之内公園を整備するというところでいろいろ掘り返していたら、中から1枚の金貨が出てきたんですよ。磨いてみたら時の皇帝ニコライ2世の顔が刻まれたロシア金貨だったんです。さらによく観てみると、そこに片仮名で二人の人名が掘られていたんです。一人は「コステンコ・ミハイル」というロシア人、一人は「タケバ ナカ」という日本人。たまたま100年前の新聞に二人の記事が掲載されて残っていたんですが、「コステンコ・ミハイル」というのは若き青年将校で、水彩画が得意で松山の街で水彩画を描いては当時の松山市民にプレゼントしていたという美談の記事。もう一人の「タケバ ナカ」さんは赤十字の看護婦さんで、突如解雇されたという記事が残っていたんですね。その二人の名前が刻まれたコインが見つかったんです。

プライバシーにも関わるので、調査はここでやめました。ここから先は、あくまでも推測の域を脱し得ないのですが、おそらく将兵と看護婦さんの間で芽生えた特別な感情が、国境を越えて

そこにはあったんだろうと。でも、歴史、それから国の情勢、そういうことが許される時代ではないですから、引き裂かれてしまう。噂に残っただけでも大変なことになる時代ですから、それで解雇された可能性もあるのではないかと。そしてその二人が、報われぬ恋を前に、最後の日に二人でコインに名前を刻んで泉に投げたんじゃないかと。それを坊っちゃん劇場の方にお話ししたら、ぜひ作品にということになって。

上演期間中は、松山市から本物の金貨がこちらの劇場に貸与されていますので、実際に実物を見ることが出来ます。非常に素晴らしい作品なので、是非またお越しいただけたらと思います。

(尾崎知事)

是非お伺いさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

(中村知事)

ということで、1時間があっという間に経過してしまいました。

今回は、両県の連携、東南海地震への備えということを踏まえた関係知事のネットワーク作り、それから実現の可能性はささやかですが、四国のプロ野球球団の課題の研究と。こういったところで合意が出来たんじゃないかと思えます。どうも本当にありがとうございました。

(尾崎知事)

よろしく願い致します。今日は本当にありがとうございました。

4 閉会あいさつ

(愛媛県企画振興部 横田部長)

ありがとうございました。本日、意見交換いただきました中で対応が必要なことにつきましては、両県で協力して、積極的に取り組んで参りたいと考えております。

それでは、閉会に当たりまして、高知県知事からごあいさつさせていただきたいと存じます。よろしく願い致します。

(尾崎知事)

本日、この交流会議、様々な点でお世話になりました。本当にどうもありがとうございました。中村知事様はじめ愛媛県の皆様、大変お世話になりましたことを、心より御礼申し上げたいと思います。本当にどうもありがとうございました。

今日お話をさせていただきました点、災害対策にいたしましても、産業振興につきましても、中山間の暮らしを守る取組みにいたしましても、ご提案もございましたように、愛媛県と高知県でしっかりと連携をしていくことが非常に重要だと改めて感じさせていただいたところでございます。また、いろんなインフラの整備を通じて、連携が可能な状況にもなりつつあります。宇和島までの高速道路の延伸、地芳トンネルの開通、これが非常に大きな契機になってきているのではないかと考えているところでございます。

愛媛県と高知県との交流については、中村知事にも引き続きご指導いただきたいと思ひますし、事務方レベルでも是非活発な交流をさせていただき、それを通じて民間の皆様同士の交流も大いに活発化しているところかと思ひます。また、それを触媒として、行政機関としてお互い大いに活発化させて取り組ませていただきたいと思ひているところではす。

本当に本日はありがとうございました。様々な形でもてなしも賜りまして、心より御礼を申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願ひ致します。どうもありがとうございました。

(中村知事)

どうもありがとうございました。

(尾崎知事)

ありがとうございました。プロ野球球団、是非引っ張って来られるといいですね。

5 閉会

(愛媛県企画振興部 横田部長)

どうもありがとうございました。

それでは、これをもちまして愛媛・高知交流会議を終了いたします。本日はありがとうございました。